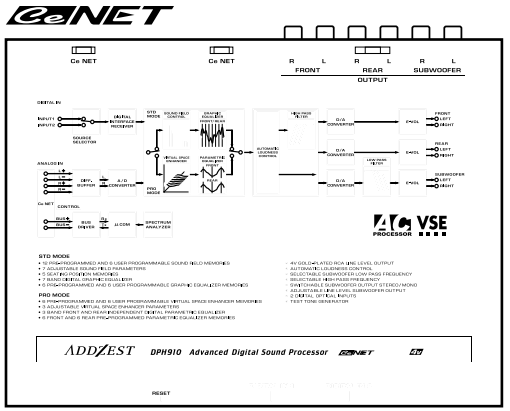
ADDZEST

アドバンスド
デジタル・サウンド・プロセッサー

DPH910

取扱説明書



このたびは、アゼスト*DPH910*をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

●安全に正しくご利用していただくため、ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みください。

●保証書（別添）は、お買い求めの販売店で記入いたしますので、内容をよくご確認のうえ、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

●この取扱説明書には、操作方法が記載されておりません。操作方法については、センターユニットの取扱説明書をご覧ください。

目　次

はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたいご注意などについて説明しています。

特長 4
ご使用の前に 5
　安全に正しくお使いいただくために 5
　安全上のご注意 6
　お取り付けいただく方へ 7
　ご確認事項 9
　取り扱いの注意 9
　お手入れについて 9

本機にできること

本機に内蔵されている多彩な機能について説明しています。

機能説明 10
　ACプロセッサー 10
　ACプロセッサーにできること 10
スタンダードモードの機能 11
　グラフィックイコライザー(G.EQ)メニューの選択 11
　G.EQ効果のON/OFF切り換え 11
　G.EQの調整およびメモリー 11
　リスニングポジションの設定 12
　リスニングポジションの微調整 12
　DSFメニューの選択 12
　DSF効果のON/OFF切り換え 13
　DSFの音場調整およびメモリー 13
プロモードの機能 14
　プロモードでできること 14
　VSE効果のON/OFF切り換え 14
　VSEメニューの選択 14
　VSEメニューの調整およびメモリー 14
　P.EQ効果のON/OFF切り換え 15
　P.EQメニューの選択 15
　P.EQメニューの調整およびメモリー 16
スタンダードモードおよびプロモード共通の機能 17
　7バンドスペクトラムアナライザー 17
　タイトル入力 17
　オートラウドネスの調整 17
　サブウーファーの調整 17
　フロントおよびリア出力の再生帯域の調整 17
　テストトーンの出力 17
　4Vプリアウト出力 18
　デジタル信号入力/出力端子 18

取付・結線のしかた

本機に付属されている部品や、本機とセンターユニットなどを接続する手順について説明しています。

製品構成 19
各部の名称とはたらき 20
取り付けかた 21
　取付上のお願い 21
　取り付け例(ドライバーズシートの下へ取り付ける場合) 21
結線のしかた 22
　結線上のご注意 22
　結線のしかた 24
システム例 25
　AUDIOフル・システム 25
　AUDIOスタンダード・システム 26
　CeNETケーブルについて 26

その他

仕様 27
アフターサービスについて ..... 裏表紙

特　長

本機は、センターユニットと接続して、お好みの音場や音質を創り出し車室内を演出する、ACプロセッサーです。

■リスニングポジションの調整

車内の座席位置に合わせた調整が可能。

■音場メニュー

代表的な12種類の音場メニューがメモリーされていますので、音場を簡単にお楽しみいただけます。また、お好みの音場に調整した音場メニューを6種類メモリーできます。

■グラフィックイコライザーメニュー

代表的な6種類のイコライザーメニューがメモリーされていますので、お好みの音質をお楽しみいただけます。また、お好みの音質に調整したイコライザーメニューを6種類メモリーできます。

■バーチャル・スペース・エンハンサー

車室シュミレーションで、どの座席に座っていても同じ音響効果が得られるように、車室内の音圧分布の補正が行えます。

■パラメトリックイコライザー

車種とスピーカーの配置や組み合わせにあわせたパラメトリックEQメニューが6種類メモリーされていますので、簡単に調整された補正特性をお楽しみいただけます。また、中心周波数、Qカーブ、ゲイン(出力)を設定することでよりきめ細かな調整を行い、6種類までメモリーできます。

■サブウーファーの調整

サブウーファー接続時には、サブウーファーの接続数に合わせてステレオ/モノラル切換や、ボリュームと、ローパスフィルターの周波数が調整できます。

■デジタル光入力端子付

別販のデジタル光ファイバーケーブルを使用し、センターユニットやCD/MDチェンジャーなどと接続することで、デジタルソース情報がダイレクトに入力されるため、原音を忠実に再生します。

■CeNET(Clarion Entertainment Network"シーイーネット")結線対応

センターユニットなどの結線に、新開発のCeNET方式を採用しました。これにより、中継ボックスや複雑な接続が不要となりました。

※ CeNET接続ケーブルの最大配線長は、20m以下(CeNET拡張ケーブル:CCA-519を含む)でご使用ください。
詳しくは、CeNET接続ケーブル長一覧表(**26ページ**)をご覧ください。

ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この「取扱説明書」への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警 告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注 意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中などには具体的な注意内容(左図の場合は指はさまれ注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中などには具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

❗ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

ご使用の前に

安全上のご注意

● 安全のため、ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
● お読みになったあとは、いつでも見られる所（グローブボックスなど）に必ず保管してください。

■使用上のご注意

⚠ 警告

●走行中は運転者による操作をしない・・・
運転者が操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

●本機を分解したり、改造しない・・・
事故や火災、感電の原因となります。

●音が出ないなどの故障状態で使用しない・・・
事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

●万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な臭いがするなどの異常が起こったときは、ただちに使用を中止し、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に相談する・・・
そのまま使用すると事故や火災、感電の原因となります。

●本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する・・・
専門技術と経験が必要です。

⚠ 注意

●運転中の音量は、車外の音が聴こえる程度で使用する・・・
車外の音が聴こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

●本機を車載用以外には使用しない・・・
感電やケガの原因となることがあります。

お取り付けいただく方へ

■作業をはじめる前に

⚠ 警告

●取り付ける車のバッテリー電圧を確認する・・・
本機はDC12V車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車では使用しないでください。火災や故障などの原因となります。

●配線作業中は、バッテリーのマイナス側のケーブルを外す・・・
ショート事故による感電やケガの原因となります。

■取付場所について

⚠ 警告

●本機を次のような場所に取り付けない・・・
- 前方の視界を妨げる場所
- ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所
- 同乗者に危険を及ぼす場所運転操作を妨げたり、外れたりして、交通事故やケガの原因となります。

⚠ 注意

●雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、ほこりの多いところへは取り付けない・・・
本機に水や湿気、ほこりが混入すると発煙や発火の原因となることがあります。

●振動の多いところなど、確実に固定できないところには取り付けない・・・
本機が外れて、事故やケガの原因となることがあります。

次ページに続く

お取り付けいただく方へ

■取り付けの注意

⚠ 警告

●車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認のうえ、これらと干渉や接触することがないように注意する・・・
パイプ類などの破損により、火災や事故の原因となります。

⚠ 注意

●必ず付属の部品を指定通りに使用する・・・
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定されずに外れたりして、事故や故障などの原因となることがあります。

●車体に穴を開けてコード類を配線するときは、絶縁性グロメットを使用する・・・
開口部とコード類との接触により、すりきれてショートし、事故や火災の原因となることがあります。

●車体の重要保安部品（ステアリング、シートレール、ブレーキ系統、ガソリンタンクなど）に取り付けられているボルトやナットは絶対に使用しない・・・
これらを使用すると制動不能や故障、発火の原因となることがあります。

●車体のネジを使用して取り付けを行うときは、ネジがゆるまないように確実に締め付ける・・・
ネジがゆるみ、事故や故障などの原因となることがあります。

■結線の注意

⚠ 警告

●接続コード類の配線は高熱部を避けて行う・・・
コード類の被覆が溶けてショートし、事故や火災の原因となります。特にエンジンルーム内の配線には注意してください。

●コード類は、運転操作の妨げとならないようにまとめておく・・・
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

お取り付けいただく方へ

■結線の注意(つづき)

⚠ 注意

●正規の接続をする・・・
誤った接続をすると、事故や火災の原因となることがあります。

●コード類の結線終了後は、コード類をクランプや絶縁テープで確実に固定する・・・
コード類が車体部分との接触により、すりきれてショートして、事故や火災の原因となることがあります。

●車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない・・・
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

ご確認事項

本機は単体では動作しませんので、必ず別販のアゼストセンターユニット（ECONETマーク付）と組み合わせて使用してください。
組み合わせのできる商品については、「システム例」の項（25～26ページ）をご参照ください。

取り扱いの注意

1. 本機は、水分や高温多湿を嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. 本機に衝撃を与えたり、ケースを開けることは絶対にしないでください。故障の原因となります。

お手入れについて

本機をお手入れするときには、やわらかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。

⚠ 注意

ディスプレイ部などの樹脂加工部に、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用しないでください。部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。

自動車用クリーナーなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげる原因となります。またゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミのつくことがあります。

機能説明

ACプロセッサー

AC プロセッサーをはじめてお使いになるかたへ

みなさんは、同じ音楽でも聴く場所によって、「聴こえかたが違う」と感じたことがあると思います。たとえば、まわりに何もない草原で音楽を聴くのと、小さな部屋で音楽を聴くのとでは、全く感じが違いますね。
草原で聴く音は、音源から直接聴こえてくるのに対し、小さな部屋で聴く音は、音源からの直接音が壁や天井に反射した音、さらに反射した反響音が複雑に混ざり合って聴こえます。つまり、「聴こえかたが違う」と感じたのは、このように聴く場所によって、音の反射のしかたが違うからなのです。
以上のことからお判りのように、音場を車内で再現することは、とても難しいことなのです。
ACプロセッサーとは、音をデジタル信号処理することで、ライブハウスやコンサート会場などと同様の音場を再現して、楽しむ機器です。

一般に、音楽(音)を聴く場所または、音の聴こえる場所を音場(おんば)と呼んでいます。

ACプロセッサーにできること

本機では、簡単に音場をシミュレーションするスタンダードモードと、音にこだわって音を補正して音場をシミュレーションするプロモードのどちらかを選ぶことができます。

本機は、単体では動作しませんので、必ず別販のアゼストセンターユニット(CeNETマーク付き)と組み合わせてください。
なお、**調整操作は、すべてセンターユニットで行います。**

スタンダードモードについて

簡易メニューを選んで音場をシミュレーションしたり、簡単な操作で音場をシミュレーションし楽しむことができます。

スタンダードモード時に操作できる機能は次の通りです。

■ グラフィックイコライザー(G.EQ)
　G.EQメニューの選択
　G.EQ効果のON/OFF切換
　G.EQの周波数調整およびメモリー
■ デジタルサウンドフィールド(DSF)
　リスニングポジションの設定および微調整
　DSFメニューの選択
　DSF効果のON/OFF切換
　DSFの音場調整およびメモリー
■ 共通項目
　スペクトラムアナライザー表示
　タイトル入力
　オートラウドネスの調整
　サブウーファーの調整
　フロント/リア出力の再生帯域の調整
　テストトーンの出力

再生している曲によっては調整時に音が乱れる場合がありますが、故障ではありません。

プロモードについて

車内の広さに応じて音場をきめ細かく調整し、お好みの音場を創り出すことができます。

プロモード時に操作できる機能は次の通りです。

■ バーチャルスペースエンハンサー(VSE)
　VSEメニューの選択
　VSE効果のON/OFF切換
　VSEの周波数調整およびメモリー
■ パラメトリックイコライザー(P.EQ)
　P.EQメニューの選択
　P.EQ効果のON/OFF切換
　P.EQの周波数調整およびメモリー
■ 共通項目
　スペクトラムアナライザー表示
　タイトル入力
　オートラウドネスの調整
　サブウーファーの調整
　フロント/リア出力の再生帯域の調整
　テストトーンの出力

スタンダードモードの機能

次ページに続く

グラフィックイコライザー(G.EQ)メニューの選択

■代表的なベーシック G.EQ メニュー
本機には、あらかじめ 6 種類のベーシック G.EQ メニューがメモリーされていますので、音楽に合わせて最適な音質を選択できます。各ベーシック G.EQ メニューは、以下の通りです。

バスブースト	重低音を増強
ハイブースト	中高域を増強
アコースティカル	中域(人の声)を増強
インパクト	低域と高域を増強
スムース	中高域を低減
フラット	原音

G.EQ効果のON/OFF切り換え

センターユニットのボタン操作ひとつで、G.EQの音質効果を ON/OFFできます。

G.EQの調整およびメモリー

ベーシック G.EQ メニューを基に、お好みで音質を調整することができます。また、調整した音質を 6 種類メモリーできます。

● ベーシック G.EQ メニューの設定値は、以下の通りです。なお、各周波数の調整範囲は、−12dB ～+12dB の間です。

周波数は、1ステップ(1dB)づつ切り換わります。

G.EQメニュー設定値	グラフィックイコライザーパラメータ（dB）						
	50Hz	100Hz	200Hz	400Hz	1kHz	3kHz	12kHz
バスブースト	+5	+6	−4	+2	0	0	0
ハイブースト	0	0	0	−2	+4	+3	+4
アコースティカル	0	+2	+1	+4	+6	+5	+1
インパクト	+4	+4	+3	+1	+3	+5	+5
スムース	+2	+2	0	−2	−4	−4	−2
フラット	0	0	0	0	0	0	0

スタンダードモードの機能

リスニングポジションの設定

スタンダードモードを選んでいるときは、プロモードの＜VSE＞と＜P.EQ＞機能の調整や効果の切り換えはできません。

リスニングポジションの初期設定は、「フロント」です。

あらかじめ座席位置に合わせて調整されたリスニングポジションの中から、こまかく設定できます。
リスニングポジション（座席位置）は、次の 6 タイプの中から選びます。

・フルシート（全座席）
・フロント - ライト（前右座席）
・フロント - レフト（前左座席）
・フロント（前座席）
・リア（後座席）
・ポジションパス（設定なし）

リスニングポジションの微調整

スピーカーからの到達時間を座席位置に合わせて、こまかく調整できますので、車内のどの座席に座っていても、自然な音場を得られます。

DSFメニューの選択

■豊富なベーシック音場メニュー
本機には、あらかじめ 12 種類のベーシック音場メニューがメモリーされています。各ベーシック音場メニューは、以下の通りです。

● ベーシック 1

ホール	広いホールのような音場
チャーチ	天井が高い大聖堂のような音場
スタジアム	広く、天井や壁のない球場のような音場
ライブハウス	ジャズクラブより大きめのライブ感覚の音場
クラブ	低音が強調されたクラブのような音場
ジャズクラブ	天井が低いジャズクラブのような音場

● ベーシック 2

ドーム	屋内競技場のような音場
チャンバー	宮廷の大広間のような音場
パーク	広々とした屋外のような音場
シアター	劇場や映画館のような音場
スタジオ	リスニングルームのような音場
B.G.M	ボーカルをカットします。

DSF効果のON/OFF切り換え

ボタン操作ひとつで、DSF の音場効果を ON/OFF できます。

DSFの音場調整およびメモリー

ベーシック音場メニューを基に、お好みで調整することができます。また、調整した音場を 6 種類メモリーできます。

● 音場メニューの調整内容は、以下の通りです。

エフェクト	反射音の割合を調整します。
イニシャルディレイ	音源と壁面の距離感を調整します。
リア - ミックス	リアスピーカーから出力される直接音の割合を調整します。
リバーブタイム	音の余韻の長さを調整します。
ハイ	高域部の音の余韻の割合を調整します。
ルームサイズ	音の拡がり感を調整します。
ライブネス	音の響き具合を調整します。

● ベーシック音場メニューの設定値と各調整の可変範囲は、以下の通りです。

音場メニュー設定値	DSFパラメータ						
	EFFECT	INITIAL DELAY	REAR MIX	ROOM SIZE	LIVE-NESS	REVERB TIME	HIGH
ホール	50%	50ms	100%			2.5s	0.5
チャーチ	50%	95ms	100%			9.5s	0.5
スタジアム	50%	85ms	100%	2.0	5		
ライブハウス	50%	20ms	100%	2.0	5		
クラブ	50%	3ms	100%	2.0	5		
ジャズクラブ	50%	1ms	100%	2.0	5		
ドーム	50%	65ms	100%			7.0s	0.5
チャンバー	50%	25ms	100%			4.2s	0.5
パーク	50%	100ms	100%	2.0	5		
シアター	50%	1ms	100%	2.0	5		
スタジオ	50%	1ms	100%	2.0	5		
B.G.M	100%						

	DSFパラメータ						
	EFFECT	INITIAL DELAY	REAR MIX	ROOM SIZE	LIVE-NESS	REVERB TIME	HIGH
可変範囲値	0～100%	0～100ms	0～100%	0.1～4	0～10	0.3～10s	0.1～1

ご注意

音場メニューは、音場の系統によって調整できないパラメータがあります。リバーブ系は、＜ROOM SIZE＞と＜LIVENESS＞の調整ができません。アーリーリフレクション系は、＜ REVERB TIME ＞と＜ HIGH ＞の調整ができません。BGM 系は、＜ EFFECT ＞のみ調整できます。

音場の系統について

本機は、音場をリバーブ系、アーリーリフレクション系、BGM 系の三系統に分けました。リバーブ系は、残響音を生かした音場、アーリーリフレクション系は、反射音を効かせた音場です。

リバーブ系の DSF メニュー
ホール
チャーチ
ドーム
チャンバー

アーリーリフレクション系の DSF メニュー
スタジアム
ライブハウス
クラブ
ジャズクラブ
パーク
シアター
スタジオ

B.G.M 系の DSF メニュー
B.G.M

プロモードの機能

次ページに続く

プロモードでできること

プロモードを選んでいる時は、スタンダードモードの＜DSFメニュー＞＜音場調整＞＜シートポジション＞＜G.EQ＞機能の調整や効果の切り換えは、できません。

バーチャルスペースエンハンサー（VSE）とパラメトリックイコライザー（P.EQ）の、さまざまな調整機能を使い、音を補正することによって、車室内をお好みの音場に近づけることができます。

バーチャルスペースエンハンサーについて

車内のどの座席に座っていても、同じ音場効果を得られるように、車室内の音圧分布の補正を行うことができます。また、この補正内容を 6 種類メモリーすることができます。

パラメトリックイコライザーについて

本機には、あらかじめ代表的な車種とスピーカー配置の組み合わせを選び、その車種に合わせた補正特性が 6 種類メモリーされています。この車種タイプのメモリーを基に、よりきめ細かい調整をすることができます。

VSE効果のON/OFF切り換え

センターユニットのボタン操作ひとつで、VSE の音圧分布補正効果を ON/OFF できます。

VSEメニューの選択

各ベーシック VSE メニューとその設定値は、以下の通りです。

メニュー	DIFFUSE	CAR WIDTH	CAR LENGTH
FLAT	5	5	5
BASS BOOST	5	5	5
HIGH BOOST	5	5	5
INPACT	5	5	5
ACOUSTICAL	5	5	5
SMOOTH	5	5	5

VSEメニューの調整およびメモリー

ベーシック VSE メニューを基に、お好みで調整することができます。また、調整した音圧分布を 6 種類メモリーできます。

● VSE メニューの調整内容は、以下の通りです。

DIFFUSE　広がり感の補正ズレを調整します。
CAR WIDTH　車内の幅（横方向）に対する補正ズレを調整します。
CAR LENGTH　車内の長さ（縦方向）に対する補正ズレを調整します。

● VSE メニューの調整可変範囲は、各項目とも 1 ～ 10 です。

各調整項目は、1ステップづつ切り換わります。

P.EQ効果のON/OFF切り換え

センターユニットのボタン操作ひとつで、P.EQ による伝送周波数特性補正効果を ON/OFF できます。

P.EQメニューの選択

本機には、あらかじめ車種およびスピーカー取付位置タイプに合わせた、6 種類のベーシック P.EQ メニューがメモリーされています。車種タイプとその設定値は、以下の通りです。

●車種タイプ

1. セダン（SEDAN）-1　フロント；2WAY　リア；リアパーセル
2. セダン（SEDAN）-2　フロント；FULL　リア；リアドア
3. ワゴン（WAGON）-1　フロント；2WAY　リア；ラゲージ横
4. ワゴン（WAGON）-2　フロント；FULL　リア；リアドア
5. ミニバン（MIN VAN）-1　フロント；2WAY　リア；ラゲージ横
6. ミニバン（MIN VAN）-2　フロント；FULL　リア；リアドア相当

車種タイプのフロントとリアは、スピーカーの取付位置を表しています。

車種タイプ	パラメトリックイコライザーパラメーター			
	チャンネル	バンド1	バンド2	バンド3
1.SEDAN	フロント	F=250Hz, Q=3, G=－8dB	F=2kHz, Q=1, G=－4dB	F=5kHz, Q=1, G=－4dB
-1	リア	F=250Hz, Q=3, G=－10dB	F=1.25kHz, Q=5, G= 0dB	F=8kHz, Q=5, G= 0dB
2.SEDAN	フロント	F=250Hz, Q=7, G=－10dB	F=800Hz, Q=3, G=－4dB	F=8kHz, Q=1, G=－5dB
-2	リア	F=80Hz, Q=7, G=＋3dB	F=125Hz, Q=5, G=－12dB	F=1.25kHz, Q=5, G= 0dB
3.WAGON	フロント	F=250Hz, Q=3, G=－8dB	F=1kHz, Q=3, G=－8dB	F=10kHz, Q=1, G=－6dB
-1	リア	F=250Hz, Q=3, G=－8dB	F=800Hz, Q=1, G=－8dB	F=8kHz, Q=5, G= 0dB
4.WAGON	フロント	F=250Hz, Q=7, G=－8dB	F=400Hz, Q=7, G=－10dB	F=1.25kHz, Q=7, G=－8dB
-2	リア	F=125Hz, Q=3, G=－8dB	F=500Hz, Q=5, G=－5dB	F=1.6kHz, Q=3, G=0dB
5.MIN VAN	フロント	F=125Hz, Q=5, G=－4dB	F=1.25kHz, Q=3, G=－4dB	F=2kHz, Q=7, G=＋3dB
-1	リア	F=250Hz, Q=1, G=－6dB	F=630Hz, Q=3, G=－4dB	F=8kHz, Q=5, G= 0dB
6.MIN VAN	フロント	F=250Hz, Q=3, G=－4dB	F=1.25kHz, Q=3, G=－8dB	F=80Hz, Q=3, G=＋3dB
-2	リア	F=250Hz, Q=3, G=－8dB	F=500Hz, Q=5, G=－5dB	F=8kHz, Q=5, G= 0dB

F；中心周波数、Q；Qカーブ、G；ゲイン（出力レベル）

P.EQメニューの調整およびメモリー

ベーシックP.EQメニューを基に、ご自分の車に合わせて周波数特性を補正することができます。また、補正した周波数特性を6種類メモリーできます。

周波数特性の補正に、別販のアゼスト・ハンディアナライザー***FHA1100***などをご利用ください。

● P.EQメニューの調整内容は、以下の通りです。

チャンネルの選択
　補正したいチャンネル(フロントまたはリア)を選びます。

中心周波数の選択
　補正したい中心となる周波数を20Hz～20kHz範囲から選びます。
　(1/3オクターブステップ、31ポイント)

Qカーブの選択
　Qカーブの鋭さを1、3、5、7、20のいずれかに設定します。

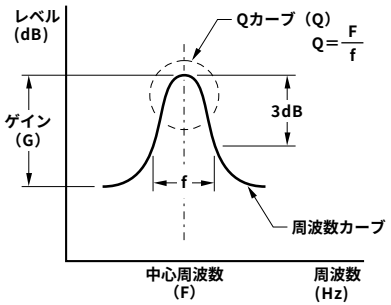
ゲインの調整
　ゲイン(出力レベル)を−12dB～+12dBの範囲で調整します。
　(1dBステップ、25ポイント)

● 補正について

周波数特性を測定器で測ったときに、周波数特性が平坦(周波数特性に山や谷が無い状態)であれば、補正の必要はありませんが、周波数特性が部分的に持ち上がっていたり、下がっていることがあります。このようなときに、部分的に持ち上がったり、下がったりしている部分の中心周波数に合わせて、逆の特性の周波数カーブをつくります。こうすることで周波数特性が補正され、平坦な周波数特性をつくりだすことができます。
このように、周波数特性をできるだけ平坦にすることが補正です。

周波数特性の補正について

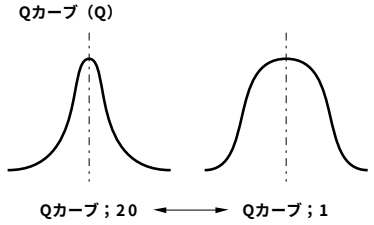
中心周波数、Qカーブ(Q)、ゲインの関係は、右図をご覧ください。



Qカーブ(Q)について

Qカーブ(Q)は、数値を大きく設定すると鋭く、数値を小さく設定すると緩やかなカーブになります。

補正したい周波数カーブと逆のQカーブ(Q)を選ぶことで、平坦な周波数特性をつくりだすことができます。



7バンドスペクトラムアナライザー

スペアナ回路を内蔵していないセンターユニット(CDデッキアンプ)と本機を接続することによって、7バンド、6パターンのスペアナを表示することができます。

■ 共通項目
- スペクトラムアナライザー表示
- タイトル入力
- オートラウドネスの調整
- サブウーファーの調整
- フロント/リア出力の再生帯域の調整
- テストトーンの出力

タイトル入力

ご自分で調整した、DSFメモリー、VSEメモリー、S. EQメモリー、P. EQメモリーにタイトルをつけて表示することができます。

オートラウドネスの調整

オートラウドネスの効果をON/OFFできます。また、0～10の範囲で効果量を調整できます。

オートラウドネスの初期設定値は、「5」です。

サブウーファーの調整

サブウーファー接続時は、以下の調整が行えます。

1. 接続したサブウーファー用スピーカーの数に合わせて、サブウーファーOFF（サブウーファー効果無し)、モノラル（1コ)、ステレオ（2コ）のいずれかに切り換えることができます。
2. サブウーファーの音量を0～14の範囲で設定できます。
3. ローパスフィルターの周波数をスルー(調整無し)、50Hz、80Hz、120Hzの4種類から選択できます。
   (スロープ24dB/oct)

サブウーファー・ローパスフィルター周波数の初期設定は、「120Hz」です。

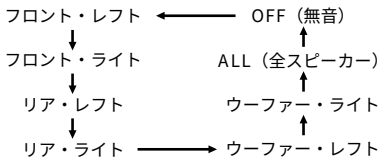
フロントおよびリア出力の再生帯域の調整

ハイパスフィルターの調整周波数をスルー（調整無し)、50Hz、80Hz、120Hzの4種類から選択することができます。
(スロープ18dB/oct)

ハイパスフィルター調整周波数の初期設定は、「スルー」です。

テストトーンの出力

スピーカーの結線確認をするために、次の順で、テストトーンを出すことができます。



テストトーンの初期設定は、「OFF」です。

スタンダードモードおよびプロモード共通の機能

4Vプリアウト出力

プリアウト出力の電圧を従来の 2V から 4V にしたことにより、伝送系のノイズに対して影響を受けにくい特性を得ています。ただし、外部パワーアンプを接続して使用する場合は、ノイズや歪みがでる場合がありますので、その際はパワーアンプ側のゲイン調整を下げてお使いください。

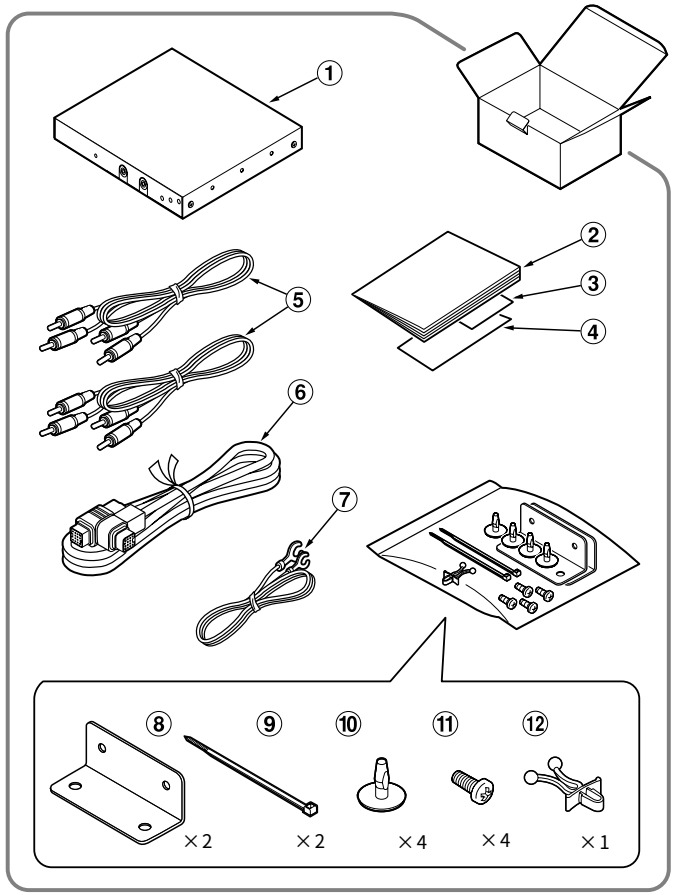
デジタル信号入力

デジタル信号入力端子を 2 系統装備していることにより、デジタル信号出力端子付ユニット（CDチェンジャーなど）を 2 台まで接続することができます。

ご注意

- **本機とデジタル出力端子付ユニットを、デジタル光ファイバーケーブルで接続していたときに、デジタル光ファイバーケーブルが抜けてしまうと、音が出なくなりますので、接続し直してください。**
- **デジタル入力をやめてアナログ入力でお聴きになりたいときは、デジタル光ファイバーケーブルを抜いたあと、センターユニットを操作してシステムチェックを行ってください。**

製品構成

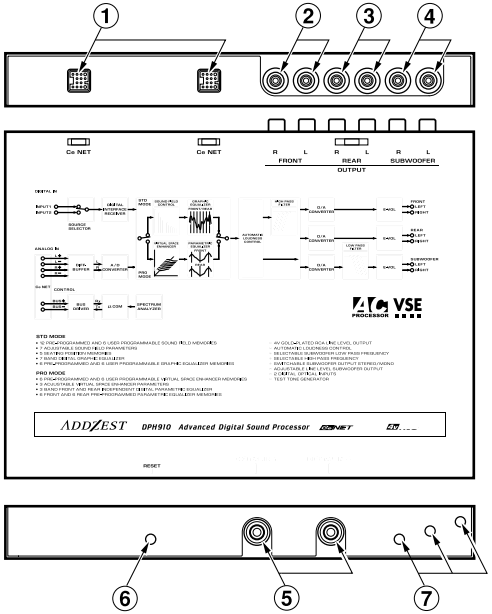


作業をはじめる前に、取り付けに必要な部品がそろっているかを、製品構成で確認してから作業をはじめてください。
また、専用の取付キットなどを必要とする場合は、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

① 本体（DPH910）
② 取扱説明書 ..... 1 部
③ ネームプレート ..... 1 シート
④ 保証書 ..... 1 部
⑤ RCAピンケーブル(2m×2ch) ..... 2 本
⑥ CeNETケーブル（2.5m） ..... 1 本
⑦ アースコード ..... 1 本
⑧ 取付ブラケット ..... 2 個
⑨ ケーブルクランプ ..... 2 本
⑩ カヌークリップ ..... 4 個
⑪ バインドネジ（M4×8） ..... 4 本
⑫ ケーブルクリップ ..... 1 個

各部の名称とはたらき

本書は、各部の名称を次のように表しています。



① CeNET入出力端子
CeNETケーブルを接続します。
＊接続ケーブルの指定は、ありません。(どちらの端子を使用しても可)

② フロント用RCA端子
RCAピンケーブルを接続します。

③ リア用RCA端子
RCAピンケーブルを接続します。

④ サブウーファー用RCA端子
RCAピンケーブルを接続します。

⑤ デジタル信号入力端子
デジタル光ファイバーケーブルを接続します。
＊接続後は、必ずケーブルクリップで固定してください。

⑥ リセットスイッチ
音が出ないときなどに、リセットスイッチを押します。

リセットスイッチを押すと、システムチェックが行われます。

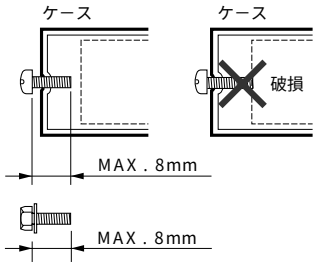
⑦ ケーブルクリップ挿入穴
ケーブルクリップを挿入し、デジタル光ファイバーケーブルを固定するときに使用します。

取り付けかた

取付上のお願い

⚠注意

取り付けには、必ず付属のネジを正しくご使用ください。指定以外のネジを使用すると、事故や故障の原因となります。



指定以外の方法での取り付けおよび結線は、故障の原因となりますので、絶対におやめください。

取り付け例（ドライバーズシートの下へ取り付ける場合）

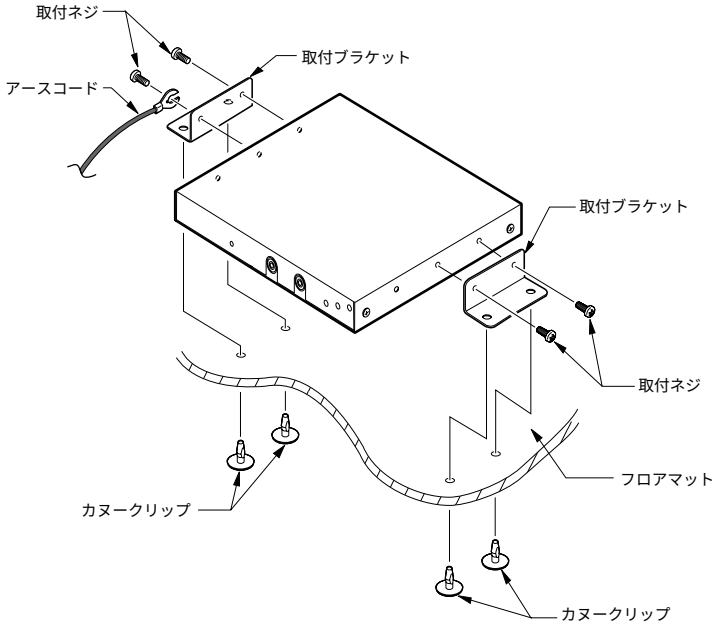
1. 本機、左右の側面に、取付ブラケットを取付ネジで取り付けます。

2. 取り付ける位置を決め、取付ブラケットの取り付け穴に合わせて、フロアマットに印を付けます。

3. フロアマットの取り付け位置に、カッターなどで穴を開けます。

4. フロアマットの裏側からカヌークリップを差し込み、本機を取り付けます。

本機には、取り付け穴が左右に３ヶ所ずつあります。取付場所に合わせて、取付穴を選んでください。



アースコードは、取付ネジで取付ブラケットと共に本体へ取り付けてください。
詳しくは、「結線のしかたの4.アースコード」(23ページ)をご覧ください。

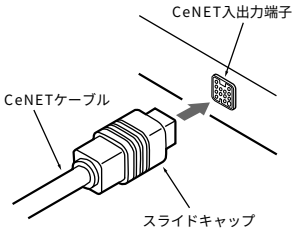
結線のしかた

結線上のご注意

※CeNETケーブルを延長するときは、別販のCeNET延長ケーブルCCA-520(2.5m)、CCA-521(0.6m)のいずれか一つをお使いください。詳しくは、販売店にご相談ください。

1. CeNETケーブル

CeNETケーブルは図のような向きにして、ロックするまで確実に差し込んでください。
CeNETケーブルを抜くときは、スライドキャップ部を軽くつまんで引いてください。



ご注意

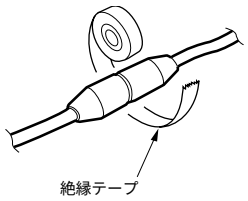
CeNETケーブルは、接続部が外れないように余裕を持って配線してください。

2. RCAピンケーブル

付属のネームプレートを接続先に合わせて、RCAピンケーブルに貼ります。ネームプレートで接続先を確認してから、RCAピンケーブルを接続してください。

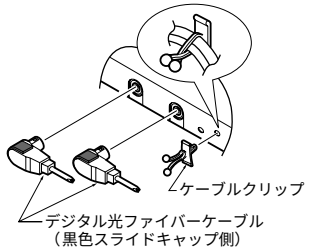
⚠注意

- **接続しないRCAピンケーブルの絶縁キャップは、ショート防止のため、はずさないでください。**
- **RCAピンケーブルは、接続部がはずれないように、絶縁テープなどで固定してください。**



3. デジタル光ファイバーケーブル

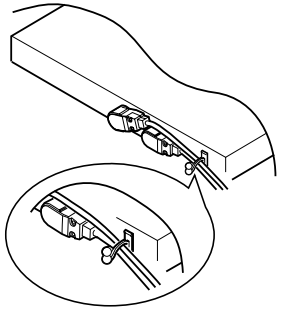
デジタル入力端子に別販のデジタル光ファイバーケーブルを接続するときは、ロックするまで確実に差し込んでください。
また、本機のデジタル入力端子には、黒色のスライドキャップのコネクターを接続します。



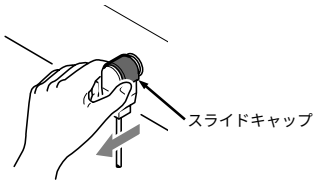
ご注意

**デジタル光ファイバーケーブルは、半径3cmの弧より小さく曲げないでください。
3cmの弧より小さく曲げると、性能が著しく低下します。**

接続後は、付属のケーブルクリップで固定してください。ケーブルクリップは、デジタル光ファイバーケーブルを2本まで固定できます。

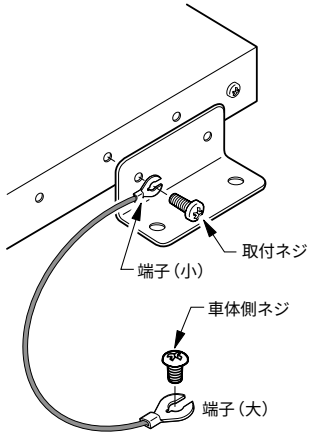


デジタル光ファイバーケーブルを抜くときは、コネクターのスライドキャップを軽くつまんで引いてください。



4. アースコード

アースコードの端子(小)は、本機の取付ブラケットと共締めし、端子(大)は、車側のネジなどを使って車体の金属部分に接続します。



ご注意

アースが確実に取れていないと、雑音の原因となります。

結線のしかた

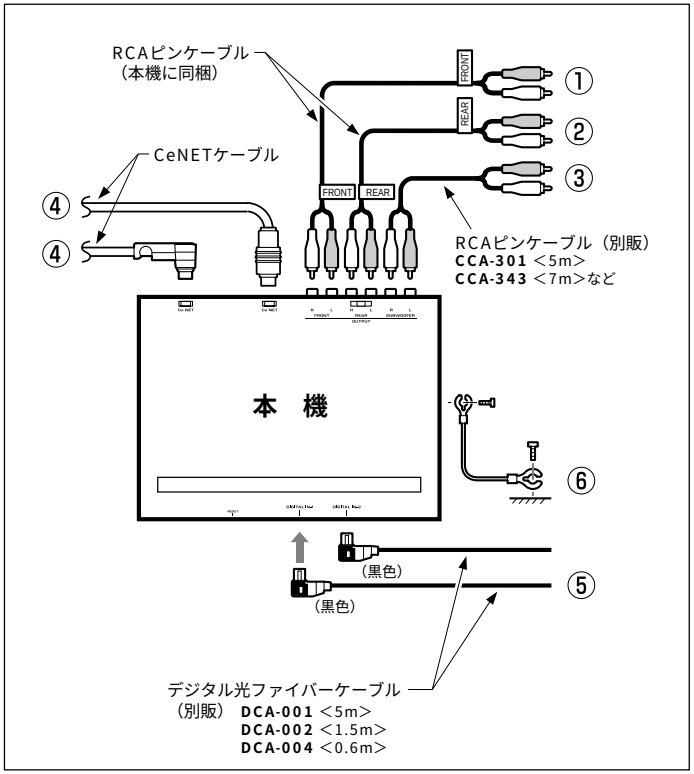
※付属のRCAピンケーブルは、2本です。
サブウーファー用アンプに接続するときは、別販のRCAピンケーブルが必要です。

※接続に関しては、「システム例」(25～26ページ)も併せてご覧ください。また、詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ご注意

デジタル光ファイバーケーブルを接続し直したときは、必ずセンターユニットでシステムチェックを行ってください。システムチェックのしかたは、センターユニットの取扱説明書をご覧ください。

結線のしかた



① センターユニットのフロント入力(灰色)または、アンプのフロント入力と接続してください。

② センターユニットのリア入力(黒色)または、アンプのリア入力と接続してください。

③ サブウーファー用のアンプと接続してください。

④ センターユニット、CD/MDチェンジャーなどと接続してください。

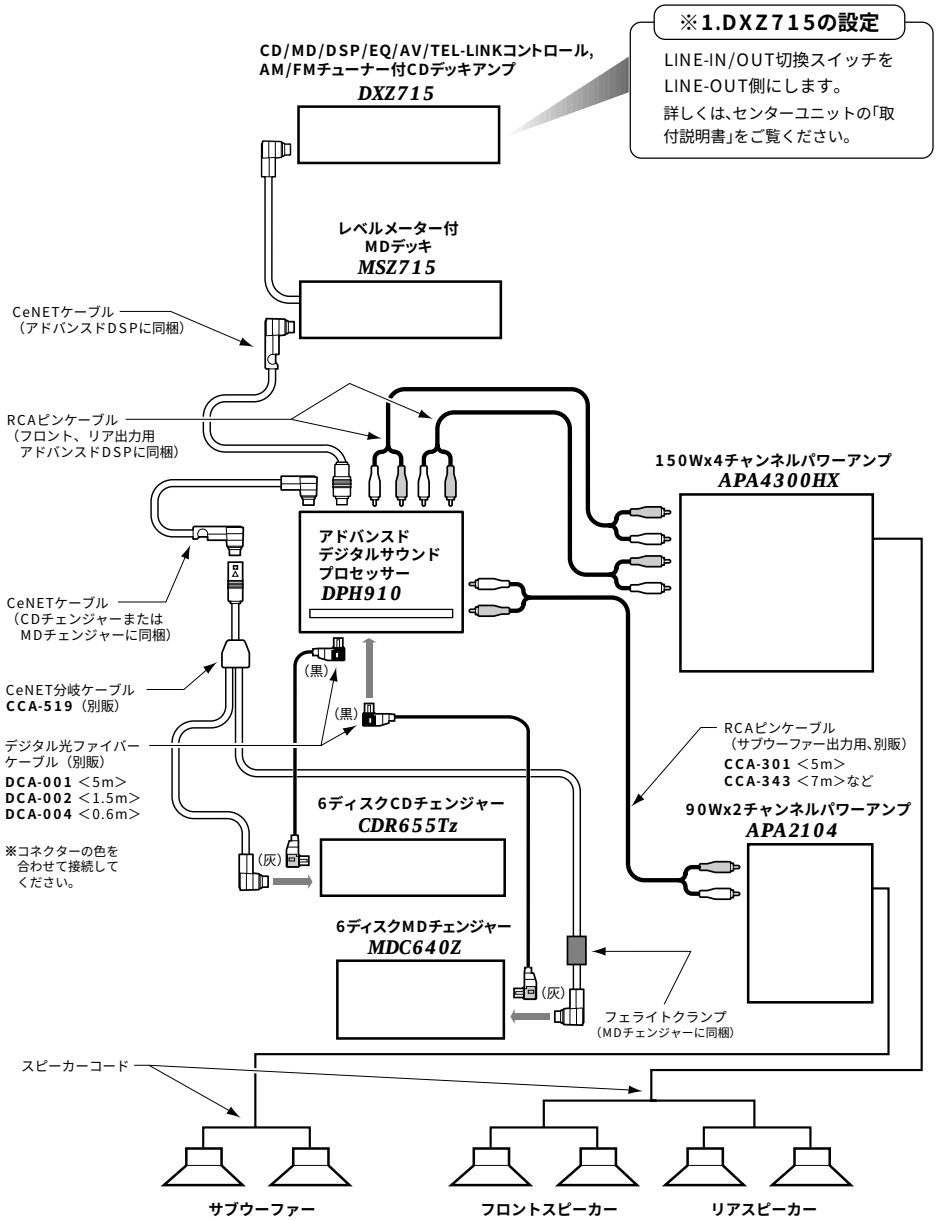
⑤ センターユニット、CD/MDチェンジャーなどと接続してください。

⑥ 自動車の金属部にネジなどで確実に接続してください。

システム例

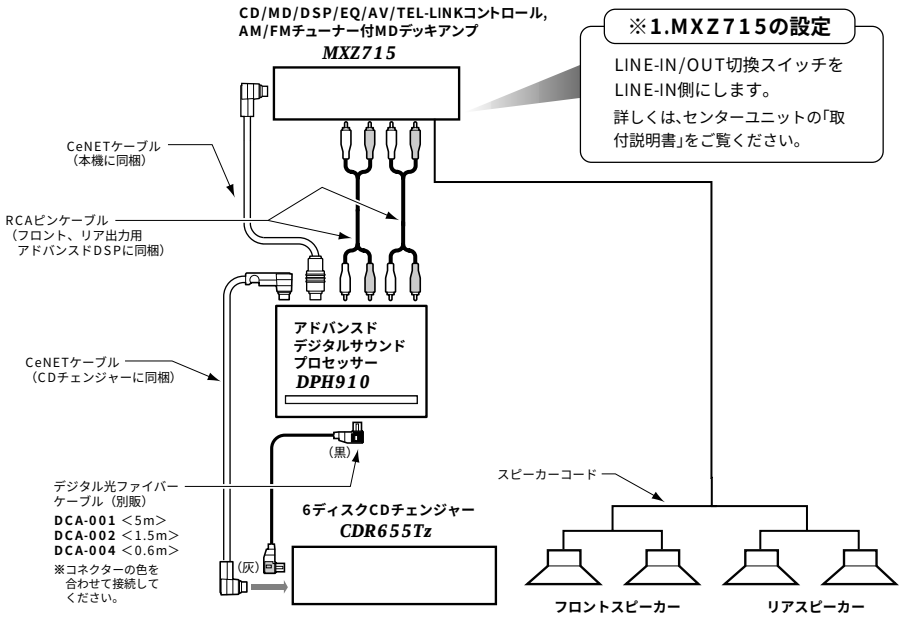
本機は、さまざまなシステムアップができます。システムアップの際には、接続できる機種を確認のうえ、正しく結線してください。

AUDIOフル・システム



システム例

AUDIOスタンダード・システム



CeNETケーブルについて

CeNET接続ケーブルの最大配線長は、20m以下（CeNET拡張ケーブルCCA-519含む）です。
接続の際は、下表をご参照のうえ、配線長が20mを越えないように、注意してください。

■ CeNET接続ケーブル長一覧表

CeNETケーブル同梱機種	ケーブル長
CeNETCDチェンジャー	5m <オス⇔オス>
CeNETMDチェンジャー	5m <オス⇔オス>
JCH540Z (オーディオコントロール付TEL-LINKユニット)	2.5m <オス⇔オス>
RVH4500z (ボイスコントロールユニット)	2.5m <オス⇔オス>
CeNETナビゲーションシステム	5m <オス⇔オス>

別販CeNETケーブル	ケーブル長
CCA-519 (CeNET分岐ケーブル)	1m <オス×2⇔メス>
CCA-520 (CeNET延長ケーブル)	2.5m <オス⇔メス>
CCA-521 (CeNET延長ケーブル)	0.6m <オス⇔メス>

<>内は、コネクターの形状を表しています。

仕　様

SN比　：107dB　（デジタル入力時）
　　83dB　（アナログ入力時）
周波数特性　：10Hz～20kHz（±1dB）
セパレーション　：100dB　（デジタル入力時）
　　80dB　（アナログ入力時）
高調波ひずみ率　：0.006%　（デジタル入力時）（1kHz）
　　0.006%　（アナログ入力時）（1kHz）
電圧利得　：2.5dB　（VOLUME MAX.：4Vプリアウト）
アナログ入力　：1.5VRMS（最大）
デジタル入力　：44.1kHzサンプリング、
　　16ビットデジタルオーディオデータ
A/D変換　：20ビットリニア、64倍オーバーサンプリング
D/A変換　：24ビットリニア、128倍オーバーサンプリング

DSF　：BASIC　12モード
　　USER　6モード
G・EQ（7バンド）　：BASIC　6モード
　　USER　6モード
VSE　：BASIC　6モード
　　USER　6モード
P・EQ　：3バンド×2（FRONT/REAR 独立）
　　BASIC　6モード
　　USER　6モード
　F（中心周波数）　：20Hz～20kHz、1/3オクターブステップ、31ポイント
　Q（Qカーブ）　：1～20
　G（ゲイン）　：±12dB
Auto Loudness　：ON/OFF、0～10ステップ

Subwoofer
　電圧利得　：＋12dB（ウーファー.VOL MAX.）
　LPF fc　：スルー、50Hz、80Hz、120Hz
　LPF SLOPE　：24dB/oct

Front/Rear
　HPF fc　：スルー、50Hz、80Hz、120Hz
　HPF SLOPE　：18dB/oct
電源電圧　：DC14.4V（10.8～15.6V）
接地方式　：マイナス接地
消費電流　：560mA
外形寸法　：230（W）×25（H）×170（D）mm
質量　：0.95kg

＊これらの仕様およびデザインは、改善のため、予告なく変更する場合があります。

アフターサービスについて

■保証書

この商品には、保証書が別途添付されています。お買い求めの際、販売店で所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

■保証期間

お買い求めの日より1年間です。

■万一故障が発生した場合

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。
お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

■保証期間経過後の修理について

修理することにより性能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

クラリオン株式会社

本　　社　　〒112-0001 東京都文京区白山5-35-2
TEL.0120-112-140(フリーダイヤル)
お問い合わせは、お客様相談室へ

ご購入年月日	年　月　日
ご購入店名	
	TEL.
製造番号	

お客様へ…… ご購入年月日、ご購入店名などを記入しておくと、お問い合わせなどのときに便利です。

Printed in Japan　2000/11（C.K）　GP-976A　280-7617-00